

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470201407
法人名	株式会社 四季の郷
事業所名	グループホーム 四季の郷富田
所在地 (電話番号)	四日市市東茂福町 4番4号 (電話) 059-361-7537
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成19年6月12日(火)

## 【情報提供票より】 (H19年5月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5人, 非常勤 7人, 常勤換算 11人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	23,000 円~	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 250,000円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500円			

### (4) 利用者の概要( 5 月 23 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2			1 名
要介護3	2 名	要介護4			0 名
要介護5	0 名	要支援2			1 名
年齢	平均 80.9 歳	最低	64 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	富田浜病院・飯田病院・斉藤クリニック・さいとう歯科・小林内科胃腸科・浜田整形外科
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者は、「スタッフがうちの宝です」と言い切られるほどに、スタッフを大切にしており、職員の離職が少ない。その結果、スタッフは「みんなのおうち」という理念どおり、利用者を家族と同じ様に大切に思い接しており、温かい雰囲気をもつホームになっている。  
 今後は現在併設されている、有料老人ホームやデイサービスに加えて、認知症対応型デイサービスの開設も予定されており、地域と共に歩む一体型の施設に近い型で利用者にとって過ごしやすい事業所になっていこうとしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回は書類の記録整理の不備と苦情受付に関する項目を改善点として提示したが、いずれも職員の話し合いによりファイルの整備、苦情箱の設置、第三者機関の連絡先の明記など、具体的に改善を図られていた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価制度の意義をよく理解し、自己評価に当たっては職員で話し合い、一層の質の向上のために更なる具体的取組項目を掲げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者代表、家族代表、自治会長、民生委員及び外部有識者の参加のもと、現在の取り組み等報告と意見交換を行なっている。今後は2ヵ月ごとの定期的開催と、市や地域包括支援センターの協力を得て開催する予定にしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時に気軽に声かけをして意見を聞きだすようにしている。重要事項説明書には苦情受付機関も明記し玄関には苦情受付箱も設置されている。苦情や相談の対応は速やかに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 毎月カラフルなおたよりを発行し、地域の自治会や民生委員、市の関係者等に配布するなど地域との連携は常に意識して図っている。併設のデイサービスの一角にはギャラリーを開設し、地域の人の絵や書、手工芸品などの展示を行い地域の人たちの気軽な参加場所として活かしている。

## 2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の家庭的雰囲気をもとにした理念に加え、四季の郷憲章で地域に密着した介護を目指すことを掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と憲章の実践については、引継ぎノートなどで日々問題点を洗い出し、ミーティング等において共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、併設棟にあるギャラリーの開放により地域の人たちと気軽に交流できる場を設けている。また、県の環境活動評価を受けて環境活動による取り組みもしている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善指摘項目を運営者以下管理者、職員の話し合いにより具体的改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年3月に利用者代表、家族代表及び外部有識者を交え運営準備会議を開催した上、第1回目の推進会議を自治会長、民生委員の参加も得て6月に開催し、現状報告と意見交換等を行なっている。	○	できれば今後は2ヶ月に一度の定期開催を目指して、よりよいホームを目指すための一助としていただく事を希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当課や地域の出先行政機関に、毎月発行している「いすず会だより」を持参し、意見交換をしてサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族には毎月発行するお便りで暮らしぶりを見てもらっているし、健康状態、金銭報告等については書面にて一人ひとりに報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に気軽に声かけをして意見を聞いたり、苦情相談箱の設置や、文書に第三者機関の明示をするなどの改善も図り、寄せられた苦情、相談には速やかに対処している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員全員が利用者の状態をよく把握した上で支援できるようにするため特定利用者の担当制ではなく、事業所全職員によるローテーションを組み、利用者が全職員と顔馴染みになるようにしている。そのために、運営者は働きやすい環境を作り、同じ介護を共有できるように常に話し合いの場を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には採用時研修があるほか、外部研修に出席後はレポート提出により全員に周知を図っている。内部研修では講師を招き全員が受講できるようにするなど、運営者は常に計画的に職員の育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と市、それぞれのグループホーム連絡協議会に所属し、相互訪問による活動や勉強会、見学会などの交流を通してサービスの質の向上に積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスの利用やショートステイ、家族、本人の見学などによりホームに慣れ親しみ理解してもらったうえでサービスの利用開始が出来るように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	和気藹々とした雰囲気ですぐす中で、職員は昔ながらの知恵を利用者から教えてもらうなど、毎日の生活の中で上下関係ではなく、横のつながりを意識した共に過ごし支えあう関係を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートへの記帳と日々の会話の中で希望や意向を把握し、本人本位に生活が送れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりのケアアセスメントや独自に作成した生活記録日誌などから、日々の課題を探り出し家族とも話し合いながら介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は3ヶ月ごとに見直しを行い、家族にも同意を得ている。変化のあった時には速やかに家族と連絡をとり話し合いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や理美容院への移送など、本人や家族の状況に応じて、外出支援などの柔軟な支援をしている。	○	近隣の高齢者が状況に応じて利用できるよう認知症対応型デイサービスを付加する予定である。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医療機関と複数契約をしているが、家族や本人の意向に沿って納得の得られたかかりつけ医を決定している。家族による受診同行を原則としているが、希望があれば通院支援もしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応指針が作成され、職員はよく理解しており、家族への説明、同意も得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規定に職員の秘密保持に関する規定があり、朝礼やミーティング等で書類の収納や言葉遣いなどプライバシー保護の具体的項目について、意識の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決められているが、一人ひとりの体調や精神面を把握し、その時の本人の希望を尊重して対処している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	有料老人ホーム、デイサービスの併設で食事は一斉に提供される仕組みになっているが、その中でも週に一度は選択メニューを準備したり、おやつ作りに挑戦するなどしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利便性の面から有料老人ホーム、デイサービスとの共有風呂を今は利用していて、午前中の中の入浴になっている。他の時間帯での入浴希望者はいないが、希望があるときはその希望に沿うように対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、習字で献立を書いてもらうなど、一人ひとりが得意とされることをみつけ、主役となる場面作りをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物の周囲1キロメートルの散歩が日常の日課となっており、買い物や行楽など車での外出支援もしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は無施錠である。玄関は二重扉構造で内扉と外扉の間の土間空間は広く、外扉はチャイムが鳴り自動押し扉で勝手な開放はできないが、希望があれば職員がついて出るなどのケアをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを整備し、年4回定期的に防災避難訓練や消防署と連携した煙体験などの避難訓練を実施している。地域の人の協力依頼もしてある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が立てているが、管理栄養士のチェックも受けていて栄養バランスは確保できている。摂取記録もその都度記帳され、一人ひとりの状態確保はできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にはソファが置かれ、季節に応じた飾りがされており居心地よく過ごせるような雰囲気作りがされている。デイサービスとの広々としたリビングの共用空間や中庭に自由に出入りができるなどの配慮もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族の好みに応じた部屋作りがされており、部屋は消臭に気を配り良い香りがただよっている。馴染みのある家具を置くなどで混乱防止につとめ、居心地よく過ごせるよう配慮をしている。		